

**One two three victory!** 大阪府立体育館に響く歓喜。昨年までとは、明らかに違う手ごたえを感じ、あっという間に第一試合は勝利した。しかし、さすがの全国大会。中学2年ながらエースの沖山、セッター鈴木格は、羽鳥中バレー部で県下において、なかなかの実力者だが、二試合目は長野の岡谷ジュニア。簡単には勝たせてはもらえない。打ってもチャンスで拾われ、サーブで、県下で0戦経験者も、ダブリも見られるほどの独特の雰囲気だ。21点先取。両者ひとつのミスも許されない中、藤沢クラブにミスが続き、14対18まで差が開く。ここで終わりたくない。

今年の夏は監督も含め、選手と一体になって、体力精神力アップに努め、ビリーズブートキャンプに取り組んだ。苦しいときにこそ声を出す！いくら言ってもできなかったが、このときばかりは、今まで以上に元気よく皆がひとつになった。

いつもなら、下を向いて、投げ出す3年エース坂巻。チームを引っ張り明るく冷静に、高さのあるブロックに向かってスーパープッシュ。長身だが生かせず、ミスばかりだった3年杉山は、ブロックポイント炸裂。一年目は10分と集中力が持たず、サーブは一本も入らなかったが、連続サーブキープ。

そして、20対20の大緊張の場面が演出された。藤沢クラブのキャプテンだが、サーブに低評の3年岡安。誰もが、なんで、岡安なんだと、ある意味思いがひとつになり、誰もが、強く願った瞬間だった。お願い入って！みなのおいを寄せたボールは、相手コートに、そして、サーブポイントではないが、その球は返ることなく、瞬間に皆が涙した。

いつも、2年に助けられ怒られていた3年が、経験と存在感を残した。歓喜の声は2回で終わったが、今までの何倍も成長した結果であった。感動をありがとう。

U-14生涯型 予選リーグ 9月15日(土)

藤沢クラブ 2  $\begin{pmatrix} 21-9 \\ 21-11 \end{pmatrix}$  0 関ヤング

藤沢クラブ 2  $\begin{pmatrix} 21-17 \\ 21-20 \end{pmatrix}$  0 岡谷ジュニア

決勝リーグ 9月16日(日)

岡山クラブ 2  $\begin{pmatrix} 21-9 \\ 21-12 \end{pmatrix}$  0 藤沢クラブ



後列左から 荒井・鈴木・斎藤・岡安・鈴木・沖山・杉山・小沢・宮澤・塚田  
前列左から 菅沼・林・日下・坂巻・末永・鈴木格